



市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお 市政直行便

2014年11月25日

号外

【編集・発行】市民ネット
長野市議会議員・布目裕喜雄

〒380-0961

長野市安茂里小市 1-4-10

自宅 ☎ 227-3537 FAX 227-3897

メール info@nunomeyukio.jp

庁舎・芸術館建設工事の 工期延長と市民負担増大を質す

新庁舎・芸術館の完成は来年11月と大幅に遅れます。全国的に深刻な労務不足と芸術館ホール天井の耐震化工事の見直し等を大きな要因として、約8カ月も遅延することになった新庁舎・芸術館建設工事。総事業費は現時点で6億3千万増加し159億8千万円となる見通しが示されています。来春には労務単価の再引き上げが検討されていることから、最終的には160億円を突破することが確実視されます。9月市議会の一般質問で取り上げました。【写真は11/4現在の工事状況。建物の形が見えてきました】

工期大幅延長の損害金、請求しない法令根拠を明らかに

8カ月もの工期延長は異常です。市は、労務不足は「不測の事態」であり、工期延長は受注者の責任ではないとして損害金を請求しないとしています。釈然としません。法令根拠を明示し市民に説明責任を果たすとともに、発注者にも受注者にも契約の履行に対する「甘さ」があったのではないかと、複雑な工事でもともと工期設定に無理があったのではないかと質しました。

市側は「予見できない不測の事態であり、契約約款や民法に照らし損害金請求はできないと判断した」と答弁しました。



6億円超の事業費増大を福祉や教育にしわ寄せしない宣言を

事業費の増額分6億3千万円の財源は、合併特例債(借金)で6億、庁舎及び文化施設建設基金3千万円で調達するとのこと。結果、借金の返済とは別に、約14億6千万円を一般財源から投入することになります。

監査委員からは「大規模プロジェクトの進捗に伴い、将来負担の増加の影響が懸念される」と指摘されたところ。す。

私は、「大規模プロジェクト事業の進捗によ

て、福祉や教育など市民生活に直結する領域の施策にしわ寄せすることはないと宣言してもらいたい」と市長に迫りました。

市長は、「公債費の増大が見込まれるが、市民生活に大きな影響が生じない財政運営を行っていく」と答弁。「小さな影響は避けられないということか！」と考えつつも、「市民生活には影響させない」市長宣言として、その確実な履行を市長に強く注文しました。

中間検査強化し、公共工事の品質確保と安全第一を徹底

市は、「8カ月の延長を縮減できるよう努力する」としますが、工事を急ぐあまり「手抜き」等があつてはなりません。中間検査体制を強化し工

事の品質確保と安全第一を徹底すること、また労務単価の引き上げが下請事業者にまで行き渡るよう監督指導を強化することを求めました。

介護保険の見直し…国基準超える「長野市モデル」を

新たな地域医療介護総合確保推進法によって、来年4月から介護保険制度が大きく変わります。健康寿命の延伸が問われる時代、介護サービスが低下しないよう、十分な「長野市モデル」をつくるよう提案しました

介護予防は市の仕事に

見直しのポイントは3つあります。一つは、介護の必要度が低いとされる「要支援 1・2」の訪問介護とデイサービスを介護保険事業から切り離し市町村の地域支援事業に移されることです。二つ目は、特別養護老人ホームの新規入居者を原則として要介護3以上に限定されること。三つ目は、一定の収入がある利用者の自己負担割合が1割から2割に引き上げられることです。負担だけがが増えてサービスが切り捨てられるのではないかとといった不安と懸念が拭えません。

問われる長野市の力量

全国一律の介護予防サービスから市の地域支援事業に移行するという事は、長野市の力量が問われることとなります。介護給付費の抑制を優先するあまり、必要なサービスが受けられなくなるようでは、到底市民の理解は得られません。国のガイドライン等が示され市の事業が検討されますが、国の基準を超えてサービスを上乘せ提供する、温かい「長野モデル」を作



り上げるよう提案・要請しました。

住み慣れた地域で 元気に老いられるように

「介護の社会化」や「在宅重視」を理念に掲げ2000年にスタートした介護保険制度ですが、当初の理念は後退していくばかり。

住み慣れた地域で元気に老いることができる、何時でも誰でも何処でも必要とする介護サービスが受けられるような介護保険制度、日常生活支援事業となるよう、さらに取り組んでいく所存です。

善光寺御開帳に4億8,600万円…次につながる投資に

市長肝いりの「新幹線延伸・善光寺御開帳プロジェクト」では、6年前の御開帳時と比較して3億7千万円も大幅に増額投資します。

新幹線延伸の機会をバネにして善光寺御開帳を盛り上げ、「まちに賑わいを」との想いは共有するところではありますが、御開帳期間中の2カ月間に2億5千万円、前回に比べ3億7千万円もの巨額を投資するだけに、「一過性の投資に終わらせない」ことを強く求めました。

例えば、2億円あれば、福祉医療費を中学生までに拡大することが十分にできます。優先的に投資したい事業がたくさんあります。

「次につながる投資」「新しい伝統を作る投資」との位置付けで、展望を持った取り組みが不可欠です。私の指摘は総務委員会の委員長報告にも盛り込まれ、市側の緊張感ある姿勢と取り組みを質しました。

任期最後の1年…福祉環境委員会・公共交通対策特別委員会等に所属

9月市議会では議会人事が行われ、任期最後の1年は福祉環境委員会、公共交通対策特別委員会に所属することになったほか、議会運営委員会の副委員長を務めます。また、議会報編集委員、ごみ処理施設の建設を所管する長野広域連合議会では福祉環境委員会委員に就きました。安心の医療・介護、子育て支援、暮らしのセーフティネットの拡充、公共交通優先で歩いて暮らせるまちづくり、そして市民に開かれた議会の活性化に向けしっかり取り組みます。

編集後記 ◆12月市議会定例会は11月28日から12月16日までの会期で。市民病院の地方独立行政法人化、市立長野高校への中高一貫教育導入などが論点に◆降ってわいた大義なき解散・総選挙。安倍内閣の信任が問われる選挙、消費税増税と格差拡大に歯止めをかけ、戦争する国にしないための選挙にしたいもの◆慌ただしい日々となり、今回の市政直便は号外に。12月20日の市政報告会にはきちんとした直便を発行予定◆いよいよ冬本番、日ごとに冷え込みが厳しくなります。ご自愛を(布)